

# 窓辺

あんどろ たかとし  
安藤 隆敏

## 「ユネスコ科学教室」の 取り組み

「ユネスコ」というと、世界遺産のことばかりが注目されている感があります。本来、ユネスコ（UNESCO）とは、国連教育

科学文化機関の略称で、国際連合の専門機関の一つです。

これに呼応する形で、浜松ユネスコ協会は1948年4月に設立されました。文部科学省のユネスコ国内委員会と一体となり、教育・科学・文化の発展を通し、人間性の理解と連帯に努力してきました。「地方

教育行政の組織及び運営に関する法律」の中にも規定されているもので、現職教員もスタッフとして活動しています。

私に関わってきた学校委員会では、小学生対象の「ユネスコ科学教室」を浜松市の委託を受けて開催しています。58年に静岡大学工学部で始まった「ユネスコ学校 科学教室」が前身で、「科学する心」の育成を目指し、1年間で9回活動します。

主な内容は「チョウと植

物」や「微生物とホタル」「富士山の自然」「天竜川の岩石」「木の実探索」「神秘的な星の世界」「ラジオを作ろう」などです。会場は、

浜松科学館や天竜川河原、富士山、佐鳴湖公園、様々な野外活動センターなど。身近な自然を科学の目で見つめ直すことで素直な心の持ち主になり、疑問を追究する人になることを目標に掲げます。また、地球の自然を守り、世界の人々の平和を願う人になってほしいとの思いも込められています。教室は2015年度までに28回を数え、修了生は3418人に上ります。

（浜松科学館館長）